

## 救急研修会の開催！2011・3・8（TUE）



檜山広域行政組合消防本部では、平成23年3月8日（火）本部庁舎を会場に、救急隊員の救急研修会を開催いたしました。

この研修会は、平成23年度から実施する「救急救命士資格を有する救急隊員の標準的再教育プラン」の各種研修会等に参加した3名の救命士が、その最先端の救命技術をフィードバックすることを目的に実施されました。

各署の救命士・救急隊員が約30名参加し、実践さながらの訓練を交えながら緊迫した空気の中で行なわれました。

講師を担当した【せたな署：須藤純一救命士】【厚沢部署：中山博之救命士】同じく【厚沢部署：太田稔久救命士】、熱心な指導、お疲れ様でした。

撮影を担当した立場から見て・・・微塵の笑顔も無駄話も無いムードの中（当たり前なのですが）シャッター音を潜めながら、極度の緊張感でのレポとなりました。

今回の実践訓練に使用された、資機材「オートパルス心肺蘇生システム」を紹介しながら、当日の様子を公開いたします。

### せたな消防署大成救急隊 3 名による実践デモンストレーション

正に「命を救うのには 1 分 1 秒も無駄にするなっ！」という瞬間的判断や、迅速な行動と連携、そして隊員同士の信頼感を目の前で見せ付けられました。



必死に患者を呼びかけ、呼吸・心拍等を確認する署員！既に A E D 装着の準備が行なわれているのが見えます。



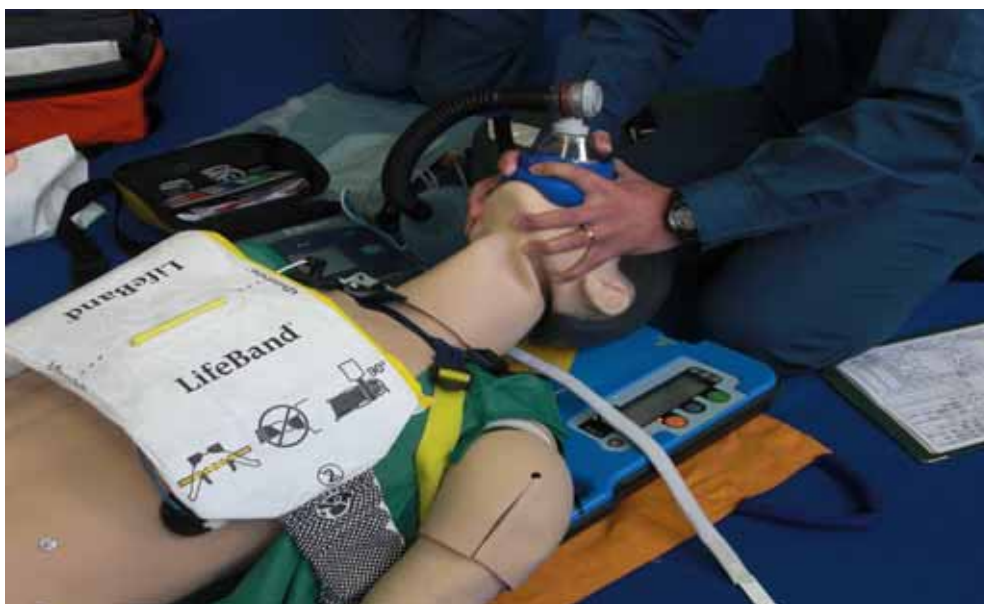
心肺停止患者想定訓練のため、心肺蘇生の開始！！！！



AEDスイッチONへの移行・・・気道確保のための首とアゴの正確な角度や、呼吸器の固定・・・普段の訓練がスムーズかつ素早くに行なわれる。



資機材「オートパルス心肺蘇生システム」の装着！この資機材の使用により、隊員１名分のチカラを発揮（補足）します。



訓練ですが、間近で見ると救急救命病棟の一室を思わせます。（手元が一切震えない・・・隊員が人命救助しか考えていない瞬間は、会場の空気さえも変えてしまう程の威力を持っていました。）



家族に薬剤を持ってもらい、注射・点滴の処置を行なう隊員。（実際の救命場所を想定し署員が家族役を行ないます。）





この間「オートパルス心肺蘇生システム」は一定のリズムを保ち可動中。



医師との通信（携帯電話にてハンズフリー）による処置の指示を受けながら、3人の連携が秒単位で行なわれ、この後救急車へ移動する想定です。





ここまで約5分間・・・見事な連携と手さばきに、レポート作成を忘れ・・・  
関心というか、感動してしまいました。



さてここからが本番！「ハイッ使ってみろっ！」という先輩のお言葉に・・・  
多少の戸惑いを見せながらも積極的に向かう若手エキスパート！





想定患者を目の前にすると、さすがに手元は素早く・・・初めて手にする資機材とは思えない手際の良さを見せます。

( この「オートパルス心肺蘇生システム」は、既に奥尻署と大成支署に配備されております。)



「訓練じゃねえぞっ!」「本番って思ってやれっ!」っという優しい眼差し。でも無言で見守る先輩は、普通に怖くないですか・・・(レポ作成者感想)

実際はこちらからも大先輩の視線・・・講師担当者は多少の笑顔の中に安心感を持ったことでしょう。



当日は、別室において「第34回北海道救急学実集会」「平成22年度第1回道南圏地域検証部会」「第160回救急活動事例研究会」の報告を行い、更には「薬剤投与のプロトコール再確認」「事後検証の総括報告」についての報告を、それぞれの講師担当救命士が行なった。

**『出席救急隊員の皆様 お疲れ様でした』**

レポート / 檜山広域行政組合・消防課